



2024 S-FJ Japan League Rd.4



Super FJ 筑波・富士シリーズ Rd.4

May RACE MEETING in TUKUBA

2024年 5月 26日 天候:晴れ/ドライ 参加15台



スーパーFJ ジャパンリーグ Rd.3 は筑波サーキット開催。

全8戦開催予定のスーパーFJ 筑波・富士シリーズの4戦目に当たり、当シリーズの折り返しとなった。今回は16台のエントリーのうち、#55 酒井翔太選手(ファーストガレージ KK-SII)と#33 磐上隼斗選手(アルビ富士吟景 GIA KK-SII)が、岡山国際サーキットでの第2戦、第3戦に引き続いての参戦となる。

一方、筑波・富士シリーズとしては第1戦、第2戦を連勝している#73 センドラ船戸アレックス翔太選手と、第3戦を制した#91 角間光起選手(ELEVレーシング 10V ED)の対決が期待されたものの、アレックス選手はカートでトレーニング中の怪我で出走取り消しに。最終的には15台での争いとなった。

予選

8時20分から20分間の計測で予選がスタート。五月晴れの筑波サーキットは気温20度、路面温度は32度のドライコンディションだ。各車、ウォームアップを経て開始から3分経過したあたりからアタックにかかる。

まず#14 伊藤駿選手(ZAPSPEED10 ED)が58秒862でトップに立ち、58秒900で#39 塚本凜世選手(F-Brain58 ウインズ S2ED)が続き、58秒952の#52 津田光輝選手(ファース

トガレージ KK-SII)が3番手に。

続いて 5 分経過時点で#53 石井大雅選手(ファーストガレージ制動屋 S2)が 58 秒 334 でトップ、#91 角間選手が 58 秒 789 で2番手に。#52 津田選手が 58 秒 762 で3番手、さらに#22 内藤大輝選手(RCIT RaiseUP ED)が 58 秒 712 で4番手に浮上。次の周には#53 石井選手が 58 秒 238、#91 角間選手が 58 秒 328 とタイムを詰めるも、ポジションは変わらず。

#91 角間選手はさらにタイムを短縮、58 秒 231 をマークしてトップに躍り出る。#53 石井選手は2番手に交代し、58 秒 483 で#14 伊藤選手が3番手に上がるが、直後に#15 黒川史哉選手が 58 秒 391 を出して6番手から3番手にポジションアップ。目まぐるしいこと、この上なし。

残り 6 分、#14 伊藤選手が 58 秒 356 で3番手にポジションアップ。そして残り 20 秒となったところで#55 酒井選手が 58 秒 408 を出して5番手につけると、チェッカーが振られて予選は終了。#91 角間選手のポールポジションが確定し、#52 石井選手が初めてのフロントローに。#14 伊藤選手と#15 黒川選手がセカンドローに並び、5番手は#55 酒井選手、6番手に#39 塚本選手が続いた。

ポールポジション: #91 角間光起選手(ELIVレーシング 10V ED)

「タイム的にはまだまだ行けるかな、っていう感じですね。昨日はマシンがトラブルで全然走れなかったの、ほぼ、ぶっつけみたいな感じ走ったんですけど、まだクルマに対して自分が合わせ切れていないところがあるので、そこを合わせ切ったらもうちょい、いいタイム出るかな、って思っています。トラブルは右リヤのアップライトの破損でしたが、チームの方に夜通し作業をしていただいて、他のチームの方にも部品を供給や、作業手伝っていただいたりと、協力していただいたので関係者の方には感謝でいっぱいです。このまま 1 位狙っていきたいと思います」



予選 2 番手: #53 石井大雅選手(ファーストガレージ制動屋 S2)

「今日はポールポジションが狙えそうな勢いだったので、それが 1000 分の 7 秒差なので、逆に悔しいです。感触は本当に良くて、1か所ミスしたかな、というくらいなので、そこを改善できれば、決勝でも行けると思います」



予選 3 番手 #14 伊藤駿選手(ZAPSPEED 10 ED)

「ちょっとミスがありました。タイヤのおいしいところを使えなかったという。上位陣は 8 周目とかにタイム出ていたので、そこがいちばんおいしいところで、その周回セクター1は良かったんですけど、第 2 ヘアピンで、ちょっとミスがあったので。クルマの感触はよくて、前回の課題だったプッシュアンダ一部分は調整して良くなりました。それでアベレージで見たら予選では安定していたので、クルマも調子悪くなくて。上位陣のアベレージはそんなに良くないので、こっちに分があります」



決勝



18周で行われる決勝レースは12時45分にフォーメーションラップ開始。気温27度、路面温度47度と、やや暑いドライコンディションだ。15台がグリッドに着くとレッドランプが消灯してレースはスタートした。

各車クリーンにスタートを切り、グリッドどおりの順番で発進。ポールシッターの#91 角間選手がホールショットを決め、#53 石井選手にわずかながらも差をつけて1コーナーをクリアしていく。後方では5番手スタートの#55 酒井選手の加速が良く、#15 黒川選手をかわすと、さらに#14 伊藤選手にも襲いかかり、1コーナーのインを突く。だが、ここは#14 伊藤選手が守り切る。1コーナーでの先陣争いで、ややアウト側に押しやられた#15 黒川選手に、#39 塚本選手が仕掛けてバックストレートで右サイドに出ると、最終コーナー入口でオーバーテイク。これで#39 塚本選手が5番手となり、#15 黒川選手は6番手に落としてオープニングラップを終了する。

トップの#91 角間選手は、#53 石井選手にコンマ4秒差で1周目のコントロールラインを通過。これに#14 伊藤選手、#55 酒井選手が僅差で続く。2周目、3周目もトップ3台はつかず離れず、1秒以内の中で連なり、#55 酒井選手はそこから1秒ほど離されて、#39 塚本選手に迫られるも、その#39 塚本選手がヘアピンで単独スピン、直ちにレースに戻るが14番手まで大きくポジションを落としてしまう。

4周目にコンマ5秒まで広がった、#91 角間選手と#53 石井選手の差ながら、5周目、6周目と#53 石井選手がファステストラップを連発して、コンマ3秒にまでギャップを詰める。しかし、#91 角間選手も踏ん張り、7周目にはコンマ4秒差にまで戻して2台の間合いは一進一退に。

トップ争いが膠着状態になる一方で、動きがあったのは5番手争いで、#15 黒川選手、#22 内藤選手、#52 津田選手の3台がワンパックになると、5周目にはさらに差が詰まる。#15 黒川選手は右のミラーが脱落しており、後続を抑えるのが苦しい状況だ。そして9周目に#22 内藤選手、#52 津田選手が相次いで#15 黒川選手を攻略、それぞれ5番手、6番手とし



て、#15 黒川選手は 7 番手までダウン。

レースは後半に入り 10 周目、トップ#91 角間選手と#53 石井選手の間隔は、その後もコンマ5秒前後の間合いで、3番手の#14 伊藤選手もそこからコンマ6秒のギャップを守り、続く#55 酒井選手も、やはりコンマ6秒差。確かなことは少しでもミスをしたら一気にやられるということで、じりじりとした展開が続く。

16 周目、2 番手の#53 石井選手は、最後のチャンスを狙って#91 角間選手とのギャップを削り始め、17 周目にはファステストラップ 58 秒 851 を叩き出してコンマ3秒差まで詰め寄って最終ラップに突入する。しかし、#91 角間選手は余力を残しており、最後の最後に#53 石井選手に対して 0.553 秒差でチェッカーを受け、スタートから一度もトップを譲らずにポール・トゥ・ウインを飾った。この勝利によって#91 角間選手は、今回欠場の#72 アレックス選手を 2 ポイント差ながらも抜いてランキングのトップにも浮上した、

2 位は#53 石井選手。初優勝とはならなかったが、デビュー戦 7 位、第 2 戦 4 位。第 3 戦 3 位と着実に順位を上げての 2 位。残るは優勝だけとなった。3 位は#14 伊藤選手で、2020 年の筑波シリーズチャンピオンは、これで 3 戦連続の表彰台へ。#73 アレックス選手とも同点で並んでいる。4位は#55 酒井選手で、ジャパンリーグを始めスーパーFJ のみならず、フォーミュラ Beat にも参戦する 16 歳は、着実に成長している。以下、5 位が#22 内藤選手、6 位が#52 津田選手という結果になった。

3 台が出場のマスターズクラスは、総合 8 位の#3 秋山健也選手(スーパーウィングズ KKS2)が優勝。総合 11 位の#38 畠山退三選手(KK-S2)がクラス 2 位、総合 14 位の#46 本間隆史選手(MAT Racing PJ10V)が 3 位となった。

次回のレースもジャパンリーグと筑波・富士シリーズの併催となり、6 月 21~22 日の富士スピードウェイが舞台となる。



優勝 #91 角間光起選手(ELIVレーシング 10V ED)

「石井くんが予選から近いタイムで、決勝もバトルになるだろうと予想していました。自分も序盤から攻めているつもりだったんですが、それでも石井くんが全然離れなくて、そこはもう戦略切り替え

て、インフィールドでタイヤ温存して、後半でバトル仕掛けられないように、少しでも相手にチャンスを作らせないような走りを心掛けていったのが結果につながったかな、と思っています。詰まっているなどは思っていましたけど、今までの経験上、刺されるほどのチャンスは作れないだろうなど。いい形で終わられたのかな、と思います」

2位 #53 石井大雅選手(ファーストガレージ制動屋 S2)

「抜けなかったですね。苦手なのが今回は最終コーナーで、あまり速くなかったので、そこで離されて……という感じの繰り返しで、ちょっとスピードが足りなかったです。細かいミスは多少あったんですけど、大きなミスはなかったです」

3位 #14 伊藤駿選手(ZAPSPEED 10 ED)

「正直、この順位は仕方ないかなって感じで。自分自身もけっこうミスしていたし、改めてストレートの遅さが目立ったなという感じで。バックストレートで詰めても挽回されちゃうので、相手が大きくミスした時だけがうまく着いていけるんですけど、ちょっと難しいものがありましたね。足回りというよりエンジン本体の差で、正直どうしようもないところで、なるべくしてなった順位かな、と思います」



S-FJ ジャパンリーグ戦では 6 位まで賞金があり、正表彰式では受賞の 6 名に贈られた。







MAY RACE MEETING in TSUKUBA

JAF Championship Super-FJ Race TSUKUBA-FUJI Series Round.4 Tsukuba Touring Car Race
TTC1400 Series Round.2 AE86/P-FR/Vitz/86/BRZ RACE Round.1 Caterham Cup Super SEVEN Race
VITA Trophy Race Series Round.1 MAZDA FAN CIRCUIT TRIAL



No. 9



Tsukuba Circuit(2,045m)

S-FJ 公式予選

2024 / 5 / 26 / D : 00

正式予選結果表

Weather : 晴れ

Track : ドライ

Pos	No	Class	C.P.	Name	CarName	Type	Best Time	Lap	Gap	Ave. Km/h
1	91			角間 光起	ELEVレーシング'10VED	RD10V	58.231	7 / 18		126.428
2	53			石井 大雅	ファーストガレージ'制動屋S2	KKS-2	58.238	5 / 19	0.007	126.412
3	14			伊藤 駿	ZAPSPEED10ED	RD10V	58.337	18 / 21	0.106	126.198
4	15			黒川 史哉	ZAP黒川&もみちゃんED	RD10V	58.391	8 / 21	0.160	126.081
5	55			酒井 翔太	ファーストガレージ'KK-S II	KK-S II	58.408	19 / 20	0.177	126.044
6	39			塚本 凜世	F-Brainウインズ'S2ED	KKS2	58.424	17 / 20	0.193	126.010
7	52			津田 充輝	ファーストガレージ'KK-S II	KK-S II	58.487	12 / 20	0.256	125.874
8	22			内藤 大輝	RCIT RaiseUP ED	KKS-2	58.585	15 / 20	0.354	125.664
9	3	MASTERS 1		秋山 健也	スーパーウインズ'KKS2	KK-S II	58.720	17 / 20	0.489	125.375
10	33			磐上 隼斗	アルビ'富士吟景GIAKKS2	KKS-2	58.949	14 / 20	0.718	124.888
11	54			中村アンスーム	ファーストガレージ'10V	RD10V	59.193	15 / 20	0.962	124.373
12	38	MASTERS 2		畠山 退三	KK-S2	KK-S2	59.215	18 / 20	0.984	124.327
13	46			本間 隆史	MAT Racing PJ10V	RD10V	59.385	7 / 18	1.154	123.971
14	18			水谷 誠	HC桶川IMRPYTTZAPED	RD10V	59.548	8 / 20	1.317	123.631
15	72			児島 優太	ELEVレーシング'Dream	Kks2	59.899	16 / 19	1.668	122.907
***** 以上予選通過 (1'15.749 - 130% /MASTERS : 1'16.657 - 130%) *****										
	73			セントラフナトレックスジョウタ	TRS 10V ED	RD10V				出走せず



Tsukuba Circuit(2,045m)

S-FJ 決勝

2024 / 5 / 26 / B : 55

正式決勝結果表

Weather : 曇り

Track : ドライ

Pos	No	Class	C.P.	Name	CarName	Type	Lap	Total Time	Gap	Best Time	Lap	Ave. Km/h
1	91			角間 光起	ELEVレーシング'10VED	RD10V	18	17'48.910		58.910	17 / 18	123.973
2	53			石井 大雅	ファーストガレージ'制動屋S2	KKS-2	18	17'49.463	0.553	58.851	17 / 18	123.909
3	14			伊藤 駿	ZAPSPEED10ED	RD10V	18	17'49.681	0.771	58.888	18 / 18	123.884
4	55			酒井 翔太	ファーストガレージ'KK-S II	KK-S II	18	17'50.953	2.043	58.902	17 / 18	123.737
5	22			内藤 大輝	RCIT RaiseUP ED	KKS-2	18	17'55.271	6.361	59.048	14 / 18	123.240
6	52			津田 充輝	ファーストガレージ'KK-S II	KK-S II	18	17'55.506	6.596	59.091	13 / 18	123.213
7	15			黒川 史哉	ZAP黒川&もみちゃんED	RD10V	18	17'57.866	8.956	59.161	6 / 18	122.943
8	3	MASTERS 1		秋山 健也	スーパーウインズ'KKS2	KK-S II	18	17'59.308	10.398	59.178	16 / 18	122.779
9	33			磐上 隼斗	アルビ'富士吟景GIAKKS2	KKS-2	18	17'59.695	10.785	59.247	15 / 18	122.735
10	39			塚本 凜世	F-Brainウインズ'S2ED	KKS-2	18	18'06.441	17.531	58.902	8 / 18	121.973
11	38	MASTERS 2		畠山 退三	KK-S2	KK-S2	18	18'10.131	21.221	59.823	16 / 18	121.560
12	54			中村アンスーム	ファーストガレージ'10V	RD10V	18	18'13.526	24.616	59.556	12 / 18	121.182
13	18			水谷 誠	HC桶川IMRPYTTZAPED	RD10V	18	18'14.323	25.413	59.730	8 / 18	121.094
14	46	MASTERS 3		本間 隆史	MAT Racing PJ10V	RD10V	18	18'14.934	26.024	59.843	14 / 18	121.026
15	72			児島 優太	ELEVレーシング'Dream	Kks2	18	18'41.805	52.895	1'01.050	9 / 18	118.127
***** 以上完走 (13Laps) *****												

